

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成22年は15万9千トンとなりました。

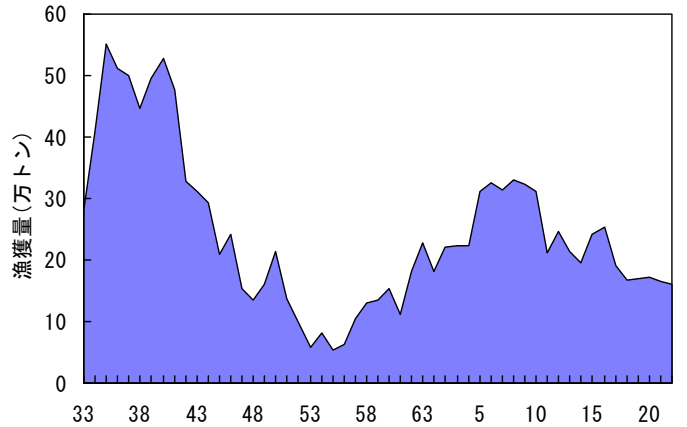


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成24年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、10月に長島、12月に甑東、甑西に漁場が形成されました。

薩南海域では、漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、マアジ仔（0歳魚：平成24年生まれ）主体に319トンの水揚げで、前年の86%及び平年の57%と低調に推移しました。

3. 平成25年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ豆・小（1歳魚：平成24年生まれ）で、マアジ小・中（2歳魚：平成23年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ1歳魚は、11月まで低調に推移していましたが、12月にまとまった漁獲がみられたことから、前年は下回るものの平年並と考えられます。また、マアジ2歳魚以上も、低調に推移していることから前年・平年を下回ると考えられます。

総合的に判断すると、前年・平年を下回ると考えられます。

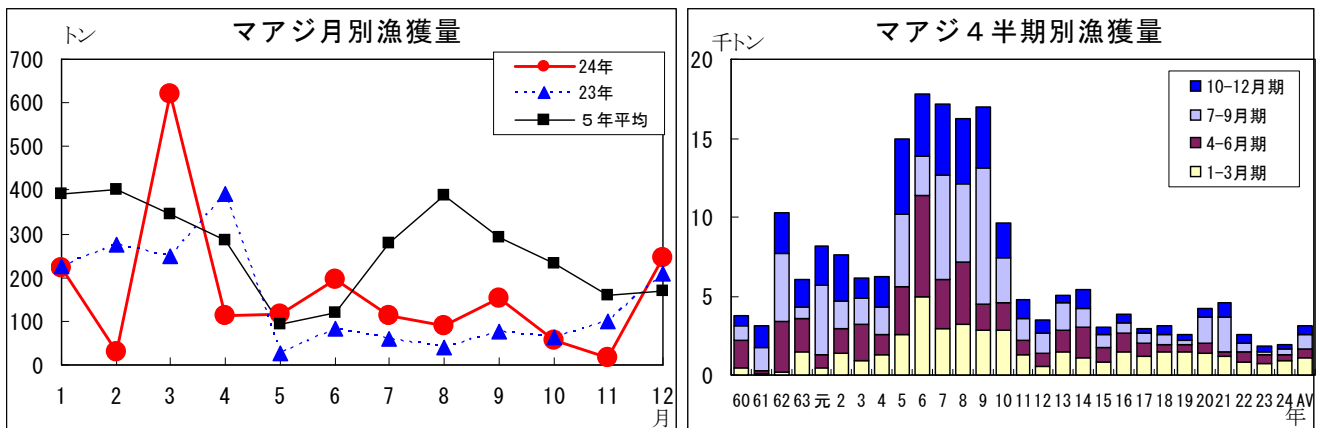


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値（AV）、平成24年12月19日までの水揚げ量を使用

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、その後減少し平成14年は27万9千トンとなりました。平成17年から再び増加し平成22年は49万2千トンとなりました。

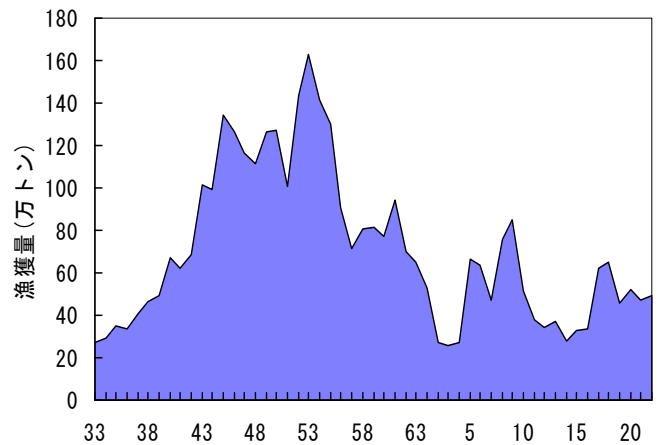


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成 24 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、12 月に甑東、甑西に漁場が形成されました。

薩南海域では、種子島東、竹島周辺、屋久島南に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、北薩海域でサバ小（1 歳魚：平成 23 年生まれ）、サバ豆（0 歳魚：平成 24 年生まれ）主体、薩南海域ではゴマサバ中（2 歳魚：平成 22 年生まれ）、ゴマサバ豆（0 歳魚：平成 24 年生まれ）主体に 1,220 トンの水揚げで、前年の 28 % 及び平年の 27 % と非常に低調に推移しました。

3. 平成 25 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中（3 歳魚：平成 22 年生まれ）で、ゴマサバ大（4 歳魚以上）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ 1 歳魚は、例年漁獲の主体となる時期ではなく、2 歳魚は低調に推移していることから、前年・平年を下回ると考えられます。3 歳魚は、これまで漁獲の主体となり漁獲が継続していますが、総合的に判断して、前年・平年を下回ると考えられます。

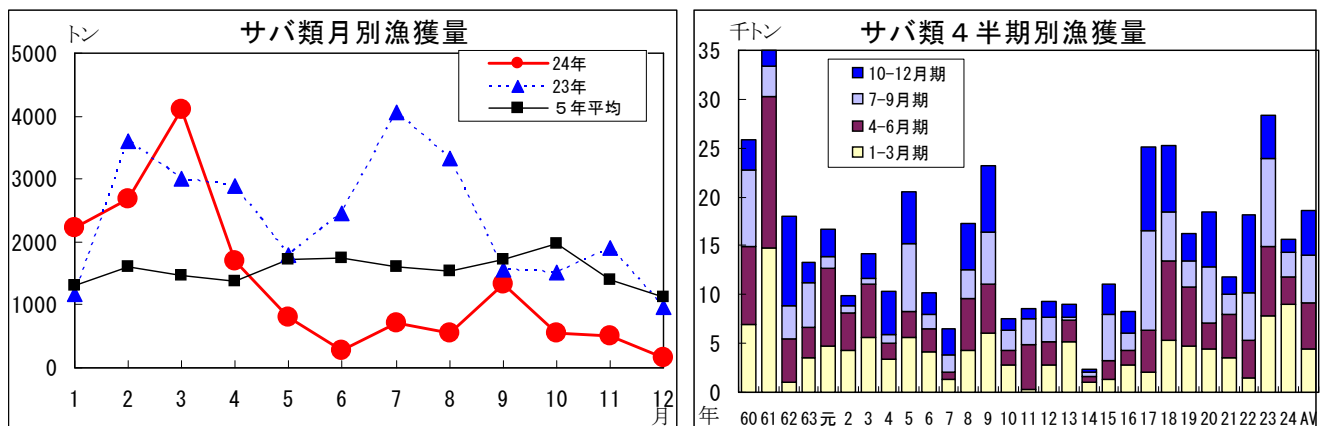


図 サバ類まき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19 ～ 23 年）の平均値 (AV)、平成 24 年 12 月 19 日までの水揚量を使用

[マルアジ（アオアジ）]

1. 漁獲量の動向（水産技術開発センター調べ）

マルアジの漁獲量は、昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しました。平成 16 年以降は低調に推移し、21 年は過去最低の 94 トンとなりましたが、22、23 年はやや増加し、23 年は 478 トンとなりました。

2. 平成 24 年 10～12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

各海域ともに低調で、まとまった漁獲はなく、期全体で 18 トンの水揚げで、前年の 9 % 及び平年の 22 % と非常に低調に推移しました。

3. 平成 25 年 1～3 月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ豆（1 歳魚：平成 24 年生まれ）マルアジ小（2 歳魚：平成 23 年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

マルアジの漁獲量は、24 年 7 月以降も低調に推移していることから、前年・平年を下回るでしょう。

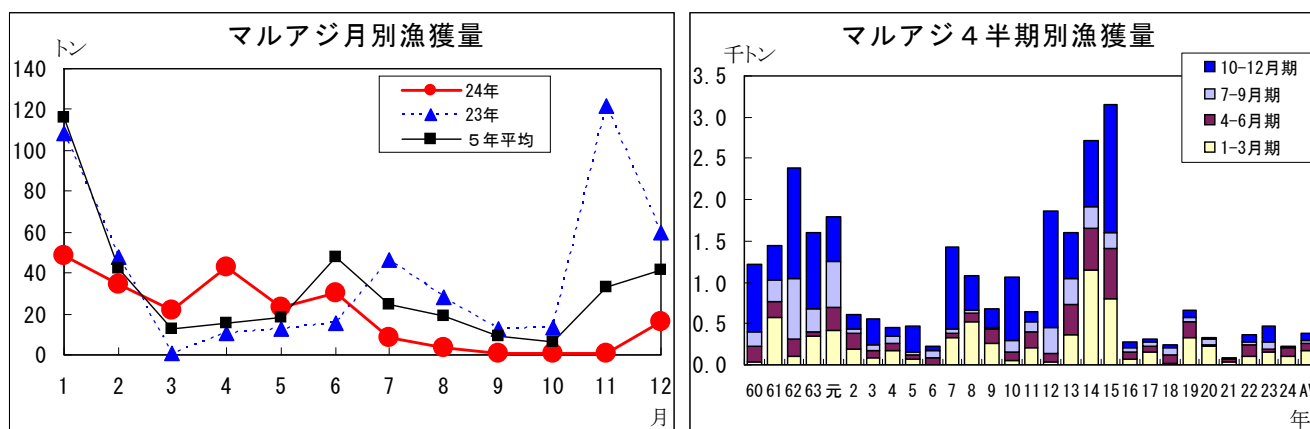


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値 (AV)、平成 24 年 12 月 19 日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。

その後さらに減少し平成14年は5万トンとなり、以降横ばい傾向で平成22年は7万トンとなっています。

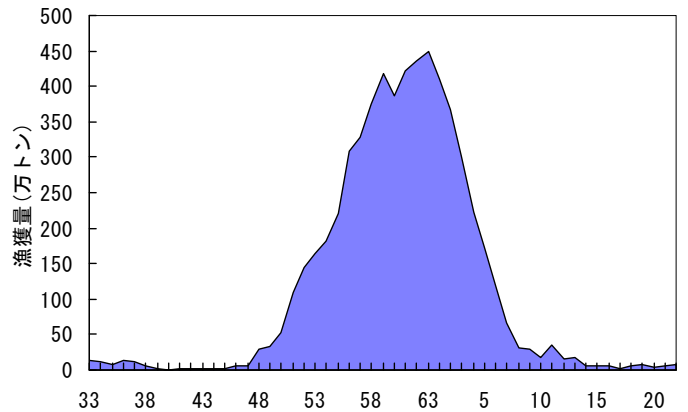


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成 24 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、阿久根沖で、薩南海域のまき網では、鷹島でウルメイワシに混じり漁獲されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖～阿久根沖にかけてウルメイワシに混じり漁獲されました。

4 港計のまき網では、小羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）主体に 35 トンの水揚げで前年の 19 %、平年の 8 %でした。

北薩海域の棒受網は、15 トンの水揚げで前年の 10 %、平年の 42 %でした。

3. 平成 25 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1 歳魚：平成 24 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

0 歳魚主体の北薩海域の棒受網の前期の状況から、今期 1 歳魚の来遊は散発的なものにとどまると考えられ、ウルメイワシに混じって漁獲される程度と考えられます。

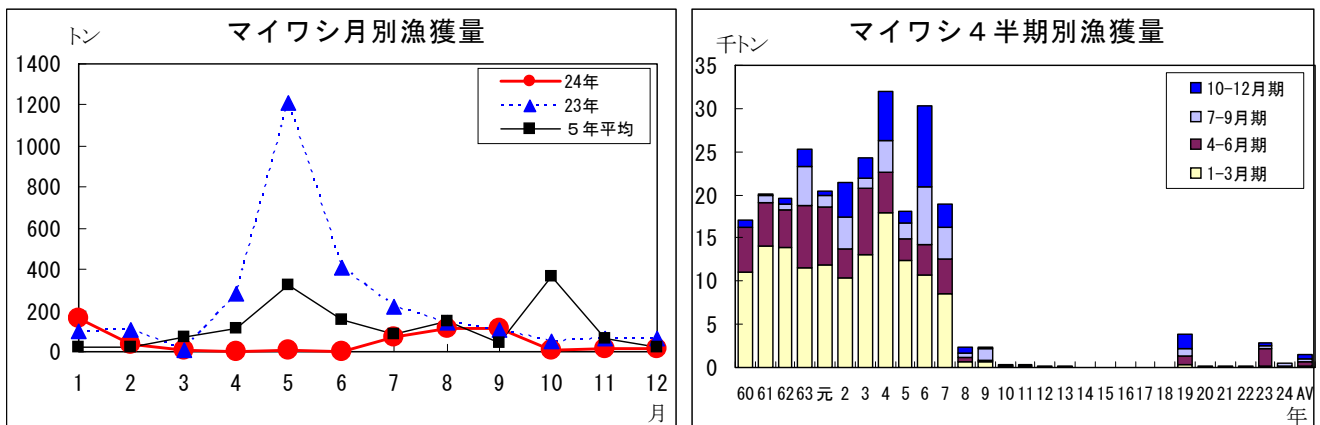


図 マイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19 ~ 23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 12 月 19 日までの漁獲量を使用

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりました。その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりましたが、近年は増加傾向となり、平成22年は5万トンでした。

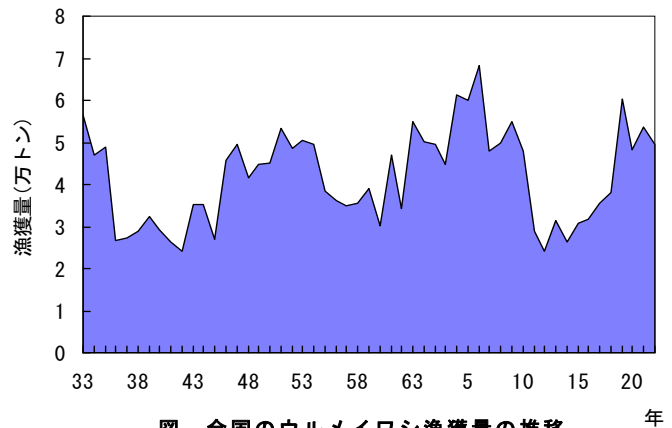


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成24年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池、坊津沖、鷹島に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽(0歳魚：平成24年生まれ)主体に2,265トンの水揚げがあり、前年の127%、平年の84%でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖にかけて漁場が形成され、中羽(0歳魚：平成24年生まれ)主体に357トンの水揚げがあり前年の94%、平年の171%となりました。

3. 平成25年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽(1歳魚：平成24年生まれ)主体に、大羽(2歳魚：平成23年生まれ)が混じりになるでしょう。

来遊量は前年を上回り、平年並となるでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期は、九州東岸を南下し薩南海域で漁獲される群が主体となります。

本県海域では、8月以降0歳魚(平成24年生まれ)主体に好調な来遊があり、また太平洋南部各県も、今期の予測を前年並みか上回るとしていることから、薩南海域への来遊は、前年を上回り、平年並になると考えられます。

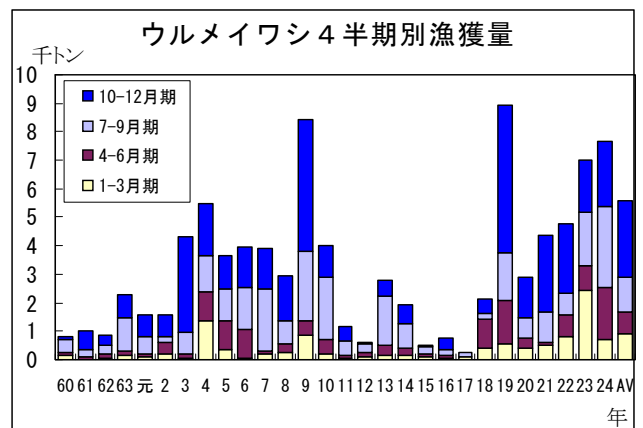
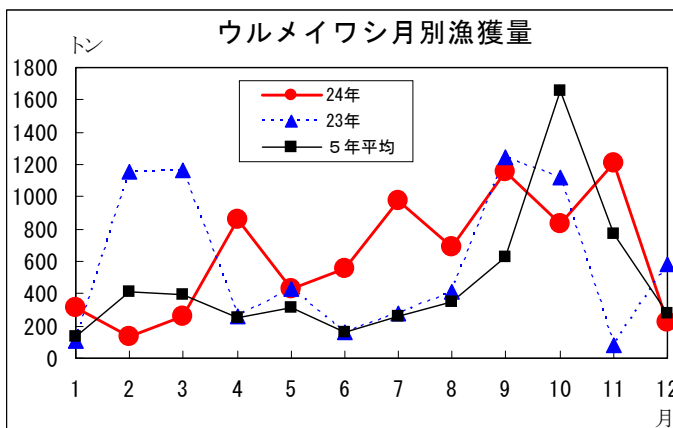


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成19～23年)の平均値(AV)、平成24年12月19日までの漁獲量を使用

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成22年は35万1千トンとなりました。

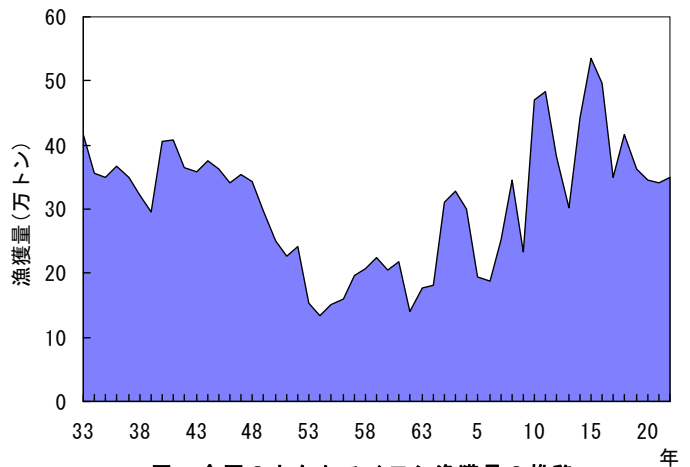


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成 24 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

野間池沖、坊津沖、甌島周辺に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では中羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）、大羽（1 歳魚：平成 23 年生まれ）主体に 248 トンの水揚げで、前年の 1089 %，平年の 349 %でした。

北薩海域の棒受網では小羽，中羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）主体に 66 トンの水揚げで、前年の 173 %，平年の 347 %でした。

3. 平成 25 年 1 ~ 3 月期の見とおし

中羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）、大羽（1 歳魚：平成 23 年生まれ）が漁獲の主体となり、前年を上回り、平年並になると考えられます。

（根 拠）

前期の漁況、西薩海域のバッチ網の漁況から来遊水準は比較的高いと考えられ、低調であった昨年は上回り、平年並と考えられます。

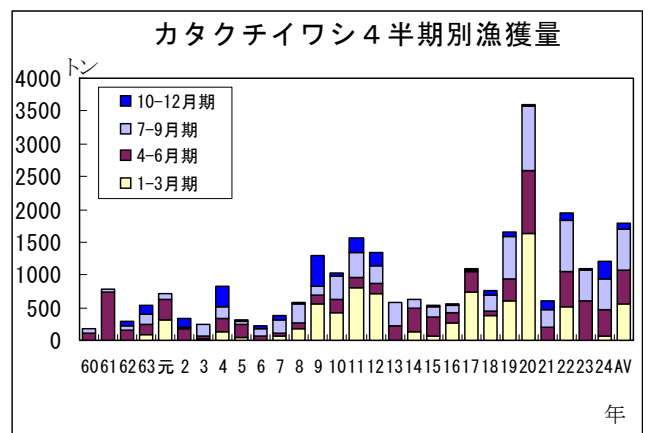
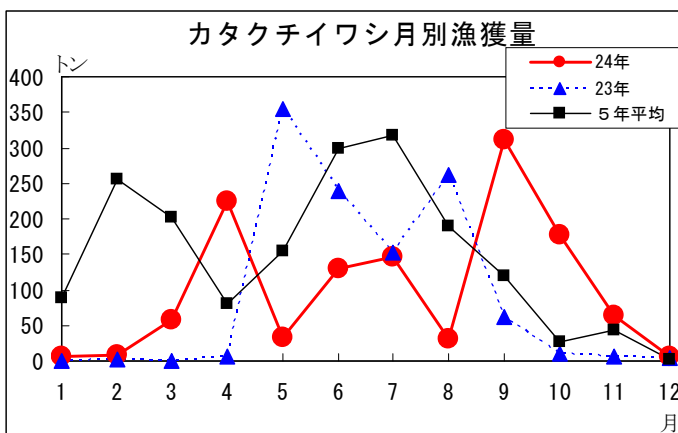


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19 ~ 23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 12 月 19 日までの漁獲量を使用

[シラス]

1. 経年経過及び平成 24 年 10～11 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 23 年は 1,718 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 23 年は 860 トンとなりました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体で 462 トンの水揚げで、前年の 134 %、平年の 148 % でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体で 248 トンの水揚げがあり、前年の 126 %、平年の 92 % でした。

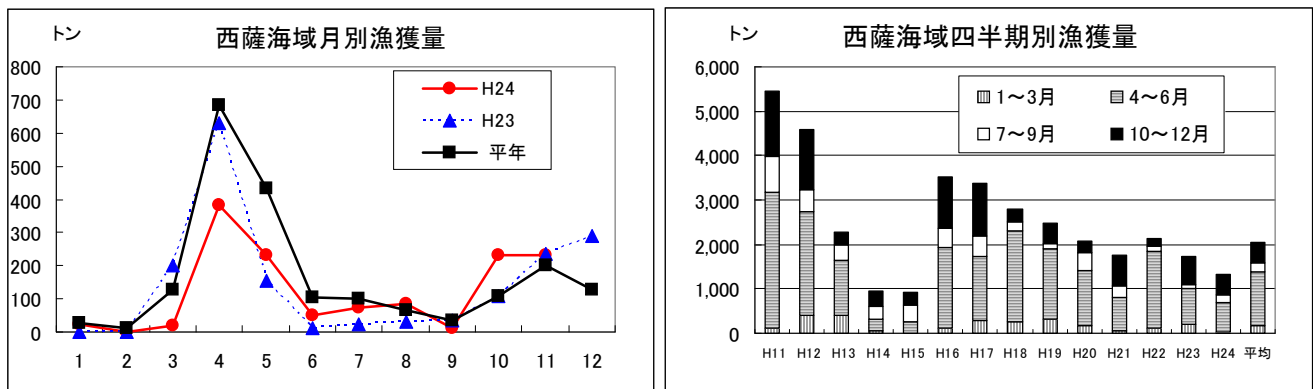


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

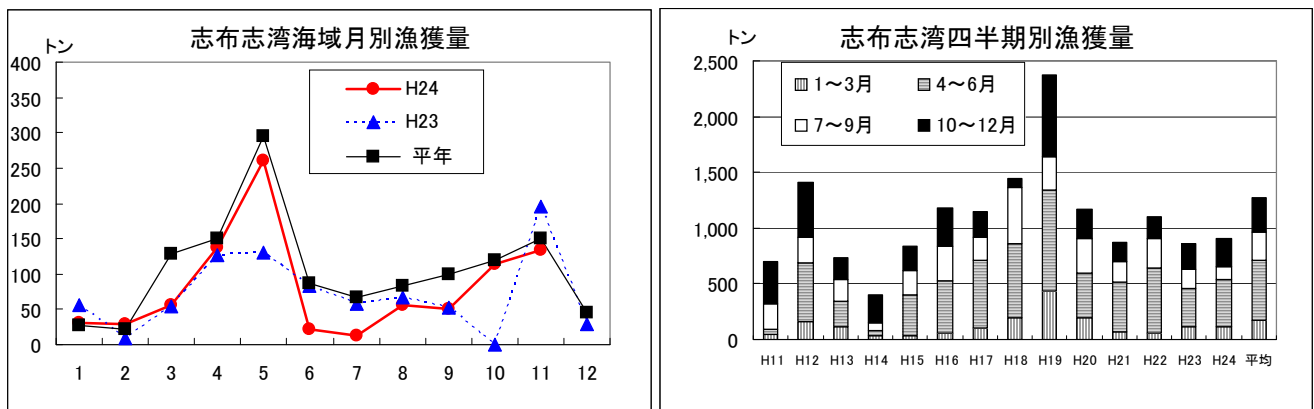


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 19～23 年)の平均値(AV)、平成 24 年 11 月末までの漁獲量を使用

[イワシ類参考資料]

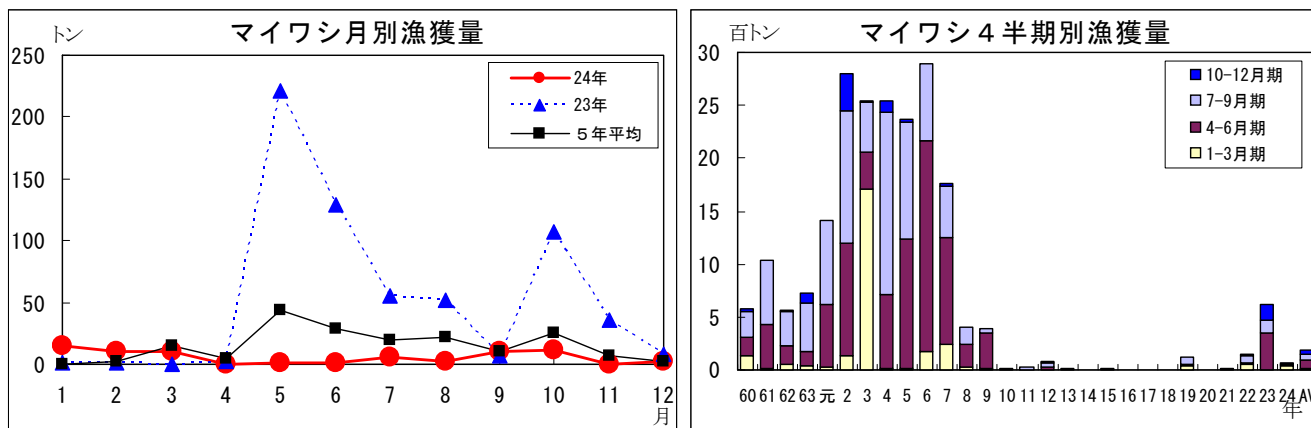


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

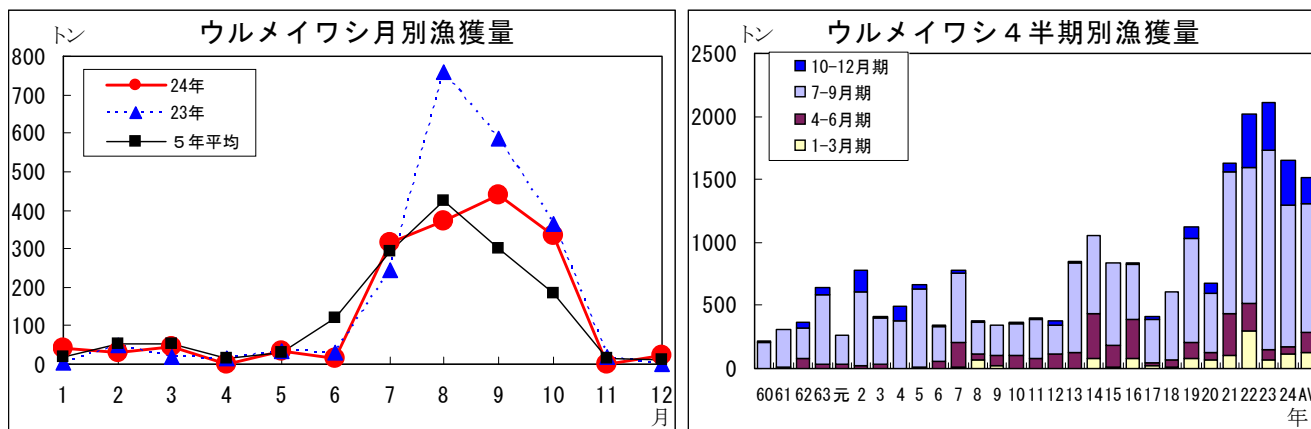


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

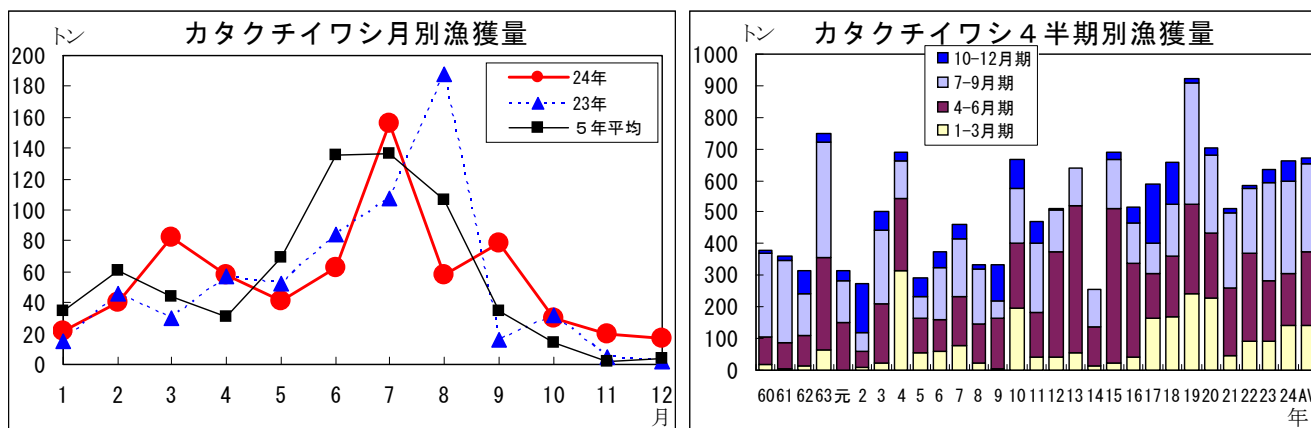


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成19~23年)の平均値(AV)、平成24年12月19日までの漁獲量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成24年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間で推移しており、平成23年は4,480トンとなりました。

平成24年10～12月は、薩南海域では、10月、11月にクサヤモロ中小、小、豆主体に平年を上回る漁獲がありました。

期全体で1,518トンの水揚げで、前年の88%及び平年の103%となりました。

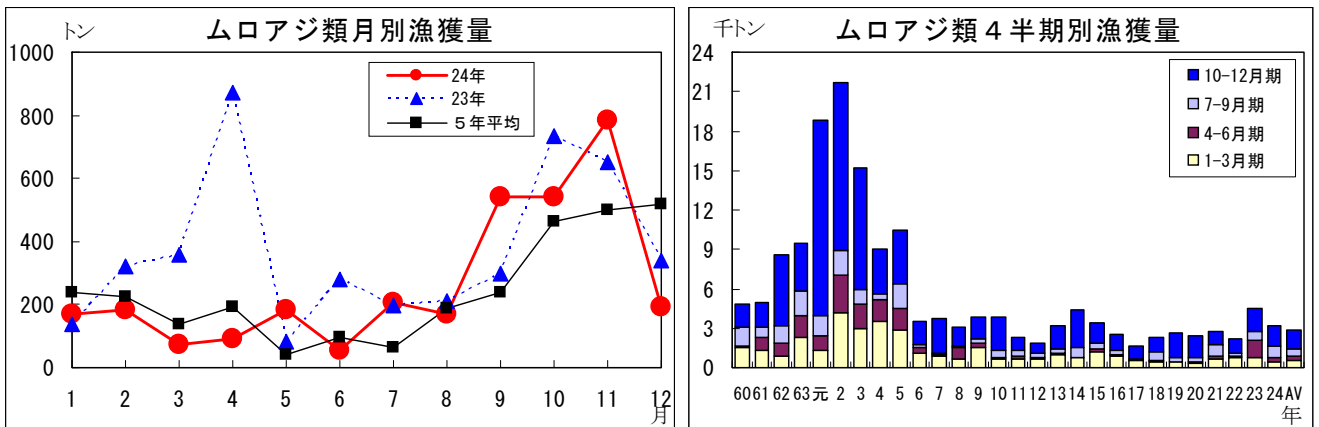


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年12月19日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（4港計）〉

1. 経年変化及び平成24年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成23年は1,498トンとなりました。

平成24年10～12月は、薩南海域では、10月、11月にオアカムロ中を主体に平年を上回る漁獲がありました。期全体で422トンの水揚げで前年の81%及び平年の130%でした。

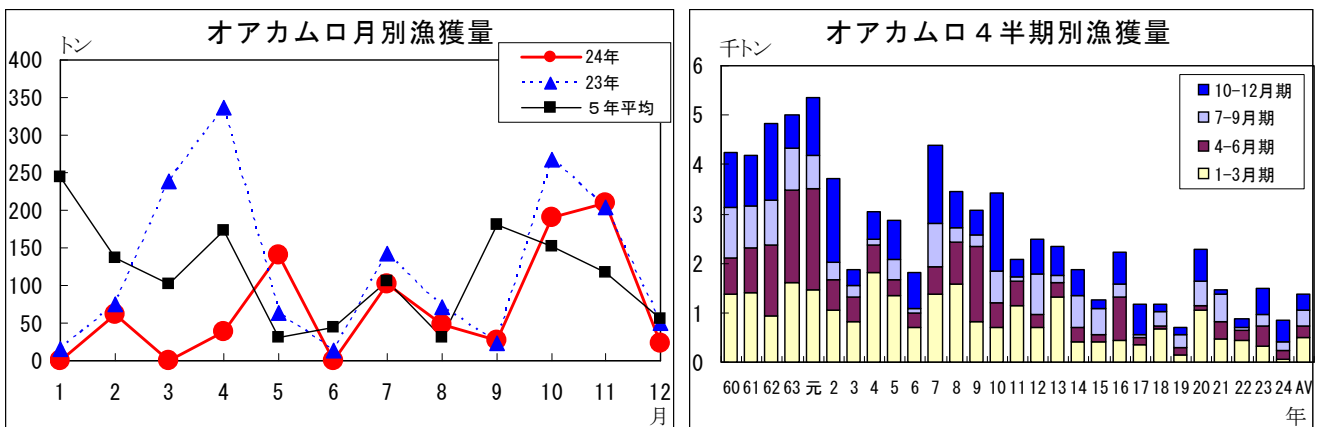


図 オアカムロまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年12月19日までの水揚量を使用